

豊庄だより

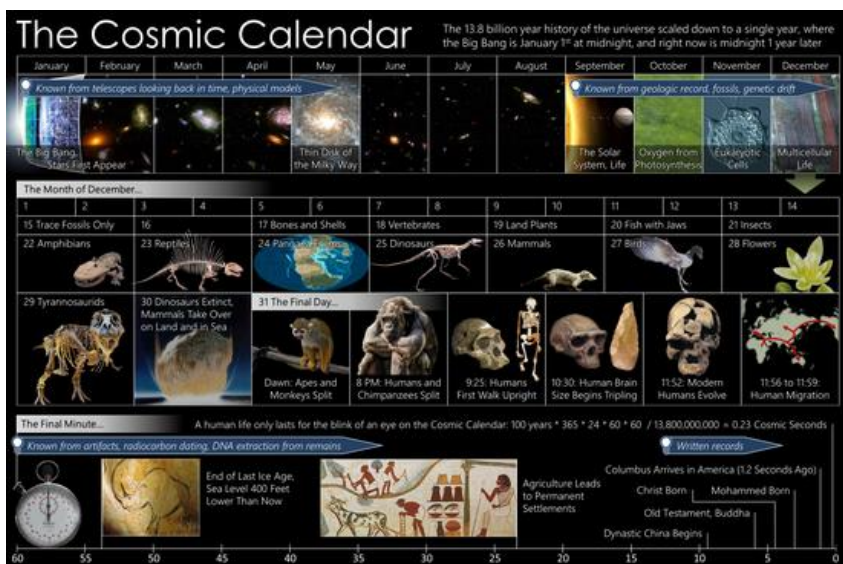


第693号 2022年1月4日

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。新年第1号の「たより」に昨年の新聞に載っていた内容からで申し訳ないのですが、紹介します(西日本新聞朝刊「春秋」2021年12月27日)。

福岡市早良区南庄2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

アメリカの天文学者カール・セーガンが提唱したカレンダーの話です。彼は、宇宙の誕生、ビックバンを元日の午前0時として、現在までの138億年を1年間とみなす宇宙カレンダーを作りました。1カ月は約11.55億年、1日は約4千万年。地球の誕生は46億年前なので8月31日ごろで、海に生命が生まれたのは9月21日。恐竜はクリスマスに登場しますが、12月27日には巨大隕石で絶滅。ようやく人類が出現するのは大みそかの、しかも午後8時過ぎ。進化を遂げ、農耕を発明したのは午後11時59分20秒。今の私たちが90年生きるとして、0.2秒ほどに収まる存在でしかない。



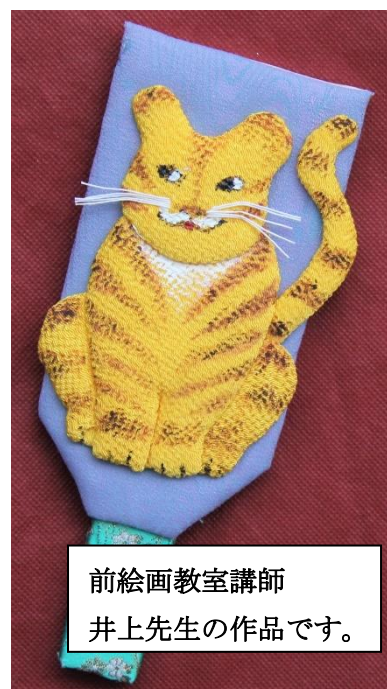
午前0時として、現在までの138億年を1年間とみなす宇宙カレンダーを作りました。1カ月は約11.55億年、1日は約4千万年。地球の誕生は46億年前なので8月31日ごろで、海に生命が生まれたのは9月21日。恐竜はクリスマスに登場しますが、12月27日には巨大隕石で絶滅。ようやく人類が出現するのは大みそかの、しかも午後8時過ぎ。進化を遂げ、農耕を発明したのは午後11時59分20秒。今の私たちが90年生きるとして、0.2秒ほどに収まる存在でしかない。

わずか0.2秒の私たちの存在！以前(教員時代の話ですが)、授業の中で、黒板に横線を弾き、人類の誕生から現在までをたどっていき、私たちがすごしている時間は、なんと短いものなのかを話したことがあります。カール・セーガンは、人類の誕生でなく地球の誕生、宇宙の誕生と比較していることにスケールの違いを感じるとともに、人間の存在の小ささを感じました。

もっと謙虚であるべき人類なのですが、世界の上位1%の超富裕層の資産が世界全体の個人資産の37.8%を占めたことが、経済学者ら100人超による国際研究で分かりました。下位50%の資産は全体のわずか2%。新型コロナウイルス禍は、この格差を一層広げそうです。

さて、話題を保育園へ。私が今一番心配しているのは、少子化問題です。来年度の新規入園申込者の書類を12月に早良区役所に提出しましたが、昨年度より2~3割減っていました。定員割れにはなりません、ここ数年の間に申込者が減少しているのを実感しています。保育園の見学も昨年の4月から12月までに130人くらいで、これも減少しています。大人数の見学会を開いたりせずに、ひとり一人の話を聞く形をとっているため、見学者が減少することは私の負担に関しては減りますが、今後、さらに減少していけばどうなるのか、とても心配です。福岡市のある区では、保育園の申し込み数より保育園の定員数のほうが上回っていると聞きました。にもかかわらず、未入所の人はまだ存在しているとも言われています。なぜこんなことが起こるのか。おそらく、希望に偏りが出ているための起こった現象でしょう。ということは、今後、選ばれる園とそうでない園ができ、選ばれない園は存在できなくなる！数年後、きっとこのような事態が生まれるのは確実でしょう。その時、豊庄保育園は存続しているのか...

寅さんの映画では、寅さんは、ここで夢から目を覚まし、主題歌が流れます。今年寅年。寅さんの新作はもう見ることはできませんが、旧作を観ながら少子化対策を考えることにします。今年の新年は、すっきりしないスタートになりました。



前絵画教室講師
井上先生の作品です。